



発行所  
公益財団法人兵庫県消防協会  
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号  
編集発行人 岸谷 義雄  
題字 井戸 知事

無事故へと  
気持ち集中  
はっけよい



明石大橋の夜明け 撮影者：稲家茂氏

### 平成二八年新春メッセージ 兵庫創生に挑む

井戸 敏三

新年あけましておめでとう  
ございます。

国内では急速な人口減少・少子高齢化、世界では地域紛争が激化する一方で、国境を越えた経済の一体化が進展しています。内外とも変化の激しい今、兵庫においても、新たな発展の枠組みが求められています。

昨秋、本県は、五年間の地域創生戦略を策定しました。今後五〇年で一〇〇万人以上の人口減少が見込まれます。少子化と高齢化も年々進行します。その中でも兵庫が活力

を保ち、将来への希望を持つ地域を目指さねばなりません。それだけに、地域の多様な資源を最大限に活用して、ふるさと兵庫を愛する人々とともに、「安全安心で元気なふるさと兵庫」を創らねばなりません。

第一は、安全安心の確保。安全こそが県民生活と社会経済活動の基です。ハード・ソフト両面から防災・減災対策を進め、危機に強い地域を創ります。また、医療、福祉の更なる充実により、安心して

暮らし続けられる体制を整えます。

第二は、多彩な人材が活躍できる社会づくり。女性、若者、高齢者、障害者の一層の社会参加を促します。そのためにも、子育て環境の整備や個性を伸ばす教育に努め、県民一人ひとりの自己実現を目指します。

網の整備、広域観光圏の形成などにより、内外との交流の拡大につなげます。  
未来は、私たちの手で変えられる。  
そのため、戦略では、自然増や社会増対策を行うとともに、人口が減る中でも実質的な経済成長を実現するという目標を掲げました。地域、地域の持つ多様な資源を活かすにつ、兵庫としてのまとまりを発揮する「多様性と連携」を基本に、皆さんと共に挑みます。「兵庫創生」に向けて、さあスタートを切りましょう。

各地域  
資源を活かし連携し  
めざすは兵庫の  
新しい展開

### 新年のあいさつ

公益財団法人 兵庫県消防協会

会長 岸谷 義雄

新年あけましておめでとう  
ございます。

平成二八年の輝かしい新春を迎え、消防団員、消防職員並びにご家族の皆様にご挨拶を申し上げます。

皆様方には、消防防災の最前線に立ち、あらゆる災害から地域の安全・安心を守るため、日夜消防・防災活動にご精励いただいておりますことに、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。また、平素は本協会の運営や活動に対し、格別のご理解とご協力を

賜りまして厚くお礼申し上げます。

さて、最近では地震や台風他にも、記録的な大雨や竜巻、火山の噴火など、大規模な災害が全国各地で頻発しております。昨年は北関東地域において、台風一八号による大雨で鬼怒川が決壊し、自然災害の恐ろしさを改めて痛感させられたところです。

このようにいつどこで災害が起きても不思議ではないという状況の中、地域防災の中核を担う我々消防団の果たす



べき役割はより一層重要性を増しており、それだけに地域住民の方々の消防団に寄せる期待も益々大きくなっております。

皆様方には、消防人として高い誇りと、地域住民の生命の崇高な使命を達成するため、今後とも心身の鍛錬、技術の錬成に努めていただきますようお願い申し上げます。

本協会といたしまして、消防の持つ役割の重要性を深く認識し、地域の安全・安心

の確保のため各種事業を積極的に推進しているところでございます。今後とも消防団の活性化を図り、社会環境の変化に即した消防団の充実強化に傾注してまいりたいと考えておりますので、皆様方におかれましては、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。また、今年度は県の操法大会が開催される年でもあり、消防活動の基本となる操法技術の向上と消防団活動のPRの機会として取り組んでいただければと存じます。

最後になりましたが、今年が災害のない平穏な一年であることを祈願し、県下の消防団員、消防職員の皆様のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

年 頭 の 辞

消防庁長官

佐々木 敦朗



平成二八年の新春を迎えるに当たり、平素から地域の安心・安全を守るため、消防防災活動や消防関係団体業務などにご尽力いただいております。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

雨では茨城県常総市において鬼怒川の堤防が決壊するなど、甚大な被害がもたらされました。

生命、身体及び財産を守るためには、消防防災体制を更に強化していく必要があります。

我が国の消防は、先人のたゆまぬ努力の積み重ねにより、着実に進展し、国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たしてまいりました。

また、川崎市の簡易宿泊所火災や広島市の飲食店火災など、多数の方が犠牲となる火災も発生しました。さらに、猛暑による熱中症の救急搬送人員数も、依然として高止まりしています。

このため、消防庁では、緊急消防援助隊及び常備消防力の充実強化をはじめ、消防団をはじめとする多様な主体による地域防災力の充実強化や火災予防対策の推進、消防防災分野における女性の活躍促進などを中心とした施策に取り組んでまいります。

一方、昨年は、口永良部島の噴火をはじめ全国的に火山活動の活発化が見られたほか、夏には各地で大雨被害が発生し、特に九月の関東・東北豪

地震などの大規模地震の発生が危惧される今日、消防に対する国民の期待はますます高まっております。また、社会構造の変化に伴い複雑多様化、高度化する事故から、国民の

あわせて、今年開催される伊勢志摩サミットにおける消防・救急体制の確保や、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等の開催に向けた大都市等の安心・

安全対策の推進など、国際会議や大規模イベントに対応するための危機管理体制の充実強化も図ってまいります。

また、東日本大震災の発生から今年で五年となりますが、被災地では、依然として厳しい状況の中で消防防災活動を強いられている消防本部もあります。被災地における消防防災体制の充実強化も、引き続き手を緩めることなく推進してまいります。

皆様方におかれましては、我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層のご支援とご協力をいただきませうようお願い申し上げます。

皆様のみましますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

皆様のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

皆様のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新たな消防防災体制づくりへ

公益財団法人 日本消防協会

会長 秋本 敏文



謹んで新春のお慶びを申し上げますとともに、日夜、地域の安全のためご尽力頂いている兵庫県内の消防関係の方々に心から敬意を表し、感謝申し上げます。

東日本大震災後も様々な自然災害が相次ぎ、住宅火災等も後を絶ちません。今年も節目の年という思いのもと、新法の趣旨等をおいしながら、関係者一同協力して、消防体制の一層の充実強化を進めなければなりません。一〇〇年以上も前から消防団は全国に設置され、我が国消防の基礎が作られ、そして、第二次大戦後、新たな消防制度のもとで、全国的な常備化が実現し、特に阪神淡路大震災後の緊急

消防援助隊の発足を契機とする装備の改善等により常備消防が一段と充実されました。これらが日本消防の第一期及び第二期と考えられると思いますが、こうして築き上げられてきた常備消防と消防団が十分連携を取って進めることからの消防防災体制の整備は、いわば日本消防第三期のスタートと考えられると思えます。それは、消防機関が活躍するだけでなく技術的な指導などを中心的な役割を果たしながら、地域住民、企業・団

体等の皆さんなど、地域の総力を結集する地域防災力の充実強化を目指すということだと思えます。

諸先輩の絶え間ないご尽力によって今日の日本消防があります。平成二八年という年も将来の日本消防の発展に貢献することとなりますよう、消防関係の皆さんとご一緒に、今年も様々な活動をしてまいりたいと考えております。

新年が皆様にとって良い年でありますように、そして県内各地が無事平穏でありますようお祈りして、新年のご挨拶といたします。



～ 謹んで新春のご挨拶を申し上げます。 ～

公益財団法人  
兵庫県消防協会

平成二八年元旦

総 裁 井戸 敏三

副 総 裁 吉本 知之

会 長 岸谷 義雄

副 会 長 北井 道男

安 達 哲哉

富 田 重二

中 西 君一

松 田 芳夫

浄 慶 康治

北 山 正

魚 住 幸市

# 平成二七年 秋の叙勲（消防関係）伝達式が挙行

平成二七年秋の叙勲が一月三日に発令されました。叙勲の受章者（消防関係）は、全国で五七四名、うち兵庫県では、元消防団員・吏員二二名が叙勲の栄に浴されました。

受章者は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、消防力の強化・拡充に尽力し、社会公共の福祉の増進及び業界の発展に寄与した。

消防関係の方々です。叙勲の伝達式は、平成二七年一月一日（水）午前一時よりニッショーホールで盛大に挙行され、土屋総務副大臣から各代表者に叙勲が伝達されました。

### 《全国消防関係受章者数》

瑞宝小綬章	一八名
旭日双光章	三名
瑞宝双光章	四名
瑞宝単光章	五〇九名
計	五七四名



叙勲伝達式



受章者の皆様



代表謝辞・飯田様

### 《兵庫県下受章者（消防功勞）》

#### ◎瑞宝小綬章

元神戸市  
消防正監 飯田 正巳



元神戸市  
消防正監 米谷 友宏



#### ◎瑞宝双光章

元佐用町消防団  
団 長 高木 照雄



#### ◎瑞宝単光章

元相生市消防団  
分団長 出田 年成



元神戸市東灘消防団  
団 長 伊藤 繁夫



元豊岡市城崎消防団  
副団長 井上 俊宏



元赤穂市消防団  
副団長 今井 武



元新温泉町消防団  
副団長 岩田 富雄



元姫路市姫路東消防団  
分団長 岩濱 清



元淡路市消防団  
副団長 大石 光司



元加古川市消防団  
分団長 岡崎 清一



元養父市消防団  
副団長 勝地 薫



元家島町消防団  
団 長 桂 長四郎



元姫路市姫路西消防団  
分団長 神吉 幸彦



元佐用町消防団  
副団長 小林 忠芳



元相生市消防団  
副団長 坂野 重好



元尼崎市消防団  
分団長 杉山 博明



元三田市消防団  
団 長 畑 勇



元加古川市消防団  
副分団長 舛賀 隆二



元太子町消防団  
副団長 三木 延昭



元豊岡市出石消防団  
副団長 山口 進



元川西市消防団  
分団長 吉井 明



# 第25回危険業務従事者叙勲が平成27年11月3日に発令



受章者の皆様

叙勲の栄に浴された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年にわたり著しく危険性の高い業務に精励するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。受章者は、全国で瑞宝双光章二九五名、瑞宝単光章三四名、計六三三名、うち兵庫県関係では、二二名の消防職員が受章されました。

### 兵庫県下受章者（消防関係）

#### ◎瑞宝双光章

元川西市

消防司令長 井上 賢治

元たつの市

消防司令長 内海 博昭

元西宮市

消防監 小川 講平

元伊丹市

消防監 嶋田 明

元西宮市

消防監 畑田 満

元北はりま消防組合

消防監 藤井 照通

元加古川市

消防監 堀井 務

元神戸市

消防監 堀家 豊

元三田市

消防司令長 前西 剛

元淡路広域消防事務組合  
消防司令長 若宮 公平

#### ◎瑞宝単光章

元芦屋市

消防司令長 市川 武夫

元明石市

消防司令 一野 邦雄

元姫路市

消防司令長 牛尾 孝三

元小野市

消防司令 田中 正和

元相生市

消防司令 谷口 彰

元赤穂市

消防司令長 中野 敏行

元明石市

消防司令長 林 日出夫

元宝塚市

消防司令長 東伸 覺

元豊岡市

消防司令 藤本 健治

元三木市

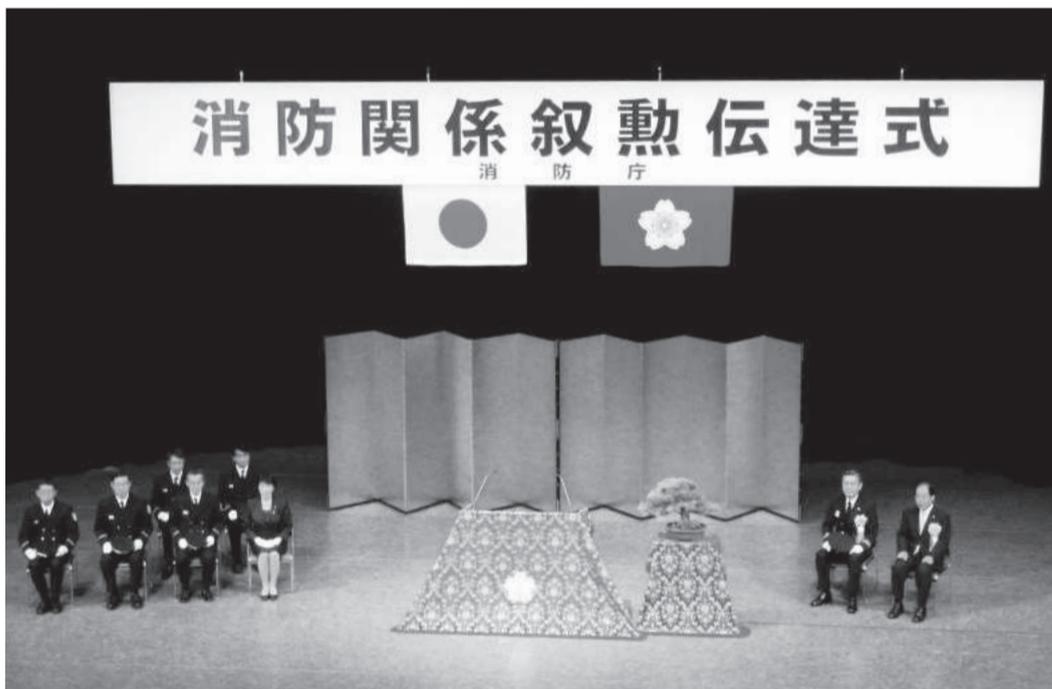
消防司令 藤原 俊廣

元神戸市

消防司令長 瀨上 信生

元姫路市

消防司令長 三木 東一



式典の様子

「平成二七年版  
消防白書」の  
公表  
消防庁

この度、消防庁において、消防白書が公表されました。消防白書は、国民の生命、身体及び財産を災害等から守る消防防災活動について紹介しているもので、毎年刊行されています。

平成二七年版消防白書では、消防庁が力を入れて取り組んでいる施策として、①創設二〇周年を迎えた緊急消防援助隊②消防団を中核とした地域防災力の充実強化について特集されており。

また、消防における女性の更なる活躍の推進、国際緊急援助及び消防防災に関する国際交流の最近の動き、熱中症への対応、台風第一八号から続く大雨等への対応がトピックスとしてあげられています。

消防白書は、消防庁のホームページに掲載されており、ぜひご覧ください。

消防庁ホームページ  
(消防白書掲載ページ)  
[http://www.fdma.go.jp/html/hakusho/h27/h27/pdf/h27\\_all.pdf](http://www.fdma.go.jp/html/hakusho/h27/h27/pdf/h27_all.pdf)



救助・救命の様子



# 平成二七年度 消防団員幹部教育指揮幹部科 現場指揮課程を実施

兵庫県消防学校

兵庫県消防学校では、平成二七年十一月七日(土)、八日(日)の二日間、消防団員五三名を対象に、「幹部教育指揮幹部科現場指揮課程」を実施しました。

「救助・救命訓練」、「防災防ぎよ訓練」、「地域防災指導訓練【応急手当】」など、実践的な実技訓練中心のカリキュラムであり、教育生からは、「基本的な部分を再確認できた」、「今まで使ったことがない資機材を実際に使った訓練でき、有意義であった」という意見が寄せられました。

また、「現場指揮と安全管理」の講義では、様々な危険が潜む災害現場で必要とされる現場指揮と安全管理について、動画映像を活用しながら重要なポイントを説明し、現場指揮・安全管理の重要性を再認識していただきました。

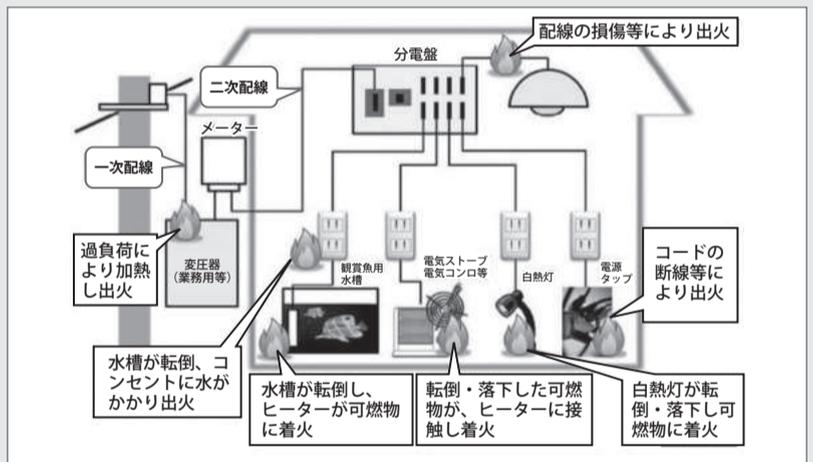
消防団を中核とした地域防災力の充実強化に寄与するため、今後も、本課程並びに分団指揮課程の教育訓練内容の充実を図ってまいります。

## 感震ブレーカーについて

地震が発生した際、揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧した時に発生する火災を電気火災と言います。阪神・淡路大震災と東日本大震災の際に発生した火災において、原因が特定されたもののうち過半数が電気火災によるものでした。

感震ブレーカーとは、地震時に一定以上の揺れを感知した場合に自動的にブレーカーを落とし、電気を遮断するものです。感震ブレーカーの設置により、地震時における電気起因する出火が相当程度抑制されると考えられています。

皆さんも、電気火災から「家」「地域」を守るために、感震ブレーカーを設置してみませんか？



電気に起因する出火の可能性がある主な部位  
引用：大規模地震時の電気火災の発生抑制に関する検討会報告書（内閣府）

このたび、感震ブレーカー等の普及啓発リーフレットが消防庁ホームページ

([http://www.fdma.go.jp/html/life/yobou\\_contents/materials/](http://www.fdma.go.jp/html/life/yobou_contents/materials/))

に掲載されていますので、ぜひご覧ください。

リーフレットのほか、感震ブレーカー等に関する情報は、以下もご参照ください。

内閣府ホームページ

<http://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/denkikaisaitaisaku/index.html>

経済産業省ホームページ

[http://www.meti.go.jp/policy/safety\\_security/industrial\\_safety/oshirase/2015/10/270105-1.html](http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/oshirase/2015/10/270105-1.html)

# 消防団 ピックアップ

## Pick Up!

### 『日々の訓練に精進』

#### 豊岡市出石消防団

豊岡市出石町は県北東部に位置し、町並みに城下町の面影を色濃く残す「但馬の小京都」と呼ばれる観光地を有する町です。

豊岡市出石消防団は、全一分団、団員数三七四名で消防団活動に取り組んでいます。

日頃から防火宣伝カーによる広報活動を頻繁に行っており、各分団による防火啓発活動が奏功してか、最近では火災件数も僅かであり、引き続き精力的に防火意識の向上に努めています。しかし、突然訪れる有事の際、迅速また的確で安全な消防活動を行うためにも、日々の訓練活動を怠ることはできません。そのため我が団では、様々な訓練を実施しています。



中学校を街区に想定して訓練しました

◆隣接団との合同訓練  
昨年度から、隣接する市内但東消防団との合同訓練を実施しています。山林や住宅密集地域での火災を想定し、他団からの中継放水による放水を行うなど、大規模火災時にも対応できる消火体制の確立に向けた訓練を行っています。また、六消防団を有する本市では、「大規模火災発生時の



月の輪工法…ガンバッテます！

◆水防訓練  
出水期を迎える時期に、県消防学校の水防技術講習会を受講した団員が指導員となり土の積みの訓練を毎年実施しています。平成一六年の台風二三号の教訓を忘れないためにも、水害対応の訓練を欠かすことはできません。



いつも以上に引き締まった顔!?です

◆県消防学校一日入校  
近い将来、分団を指揮する立場にある副分団長を主体に、短期教育に入校してきました。各個訓練、部隊訓練、表彰要領など、指導する立場になる



3時間みっちり教わりました

消防団相互応援」の取決めを、平成二八年四月から運用開始する予定です。  
◆普通救命講習  
市消防職員の指導による三時間の普通救命講習会を、毎年実施しています。一次救命処置の手順として、心肺蘇生法とAEDの使用について基本から学び、指導員のアドリブにより様々な場合を想定し、トライ&エラーを繰り返しながら確認できる実りある講習を行っています。



女性消防団…ガンバッテます！

◆女性消防団放水演技  
出石団では六名の女性消防団員が所属しており、日頃は防火宣伝などの広報活動を精力的に行っています。毎年開催している操法大会で、本年度は女性消防団員による「消火栓からの放水演技」を操法形式で実施しました。男性団員に負けず劣らずの気持ちで訓練を繰り返して、本番も見事に披露することができました。有事の放水活動でも訓練の成果が発揮できるよう、今後も引き続き訓練に取り組んでいきます。

◆ソフトバレーボール大会  
団員の健康増進事業としてソフトバレーボール大会を行っています。健康管理はもちろん、隣接分団など日頃の訓練活動の垣根を越えた団員同士のコミュニケーションの強化を図っています。

◆地域でサポート！丹波市消防団です！  
丹波市消防団は平成一六年一月一日に旧水上郡六町（柏原町・水上町・青垣町・春日町・山南町・市島町）が合併し、二八四九名で発足しました。その後、丹波市消防審議会の答申のもと、幾度と機構改革を行い、定数の改正が行われ、平成二七年四月一日の第二次再編により条例定数一七〇六名で構成されています。丹波市消防団では、団員の技術力と士気向上のため、ポンプ操法大会の他、各地域単位で独自の訓練や研修会を実施しています。その一例を紹介いたします。

◆小学校防災訓練  
市内小学校の避難訓練に合わせ、地元消防団が出前講座形式で小学校へ出向き、通報・消火・避難訓練の三本立



健康増進ソフトバレーボール



小学校防災訓練



◆自主防災とタイアップで地域消防力強化  
火災の際、延焼を最小限に抑えるのが現地の自主防災組織です。丹波市では消防団OBも加わり自主防災組織を形成して身近な所の防災力強化に努めています。そこに防災会や地元消防団も加わり、地域一体となって地域消防防災力の強化を図っています。消火器の正しい使い方や消火栓による初期消火の必要性を



自主防災タイアップで地域消防力強化



広く理解していただくため、一連の実地訓練を行い、火の特性と消火に関する知識を身に付け、有事の対応に備える活動を続けていきます。

◆女性消防分団も負けてません  
九月号でお知らせしました「第二一回全国女性消防団員活性化佐賀大会 情報交流会 お国自慢のど自慢大会」では丹波市音頭に合わせAEDの使い方について歌い上げました。優秀賞も頂き、団員のモチベーションは更に上昇中です。今年度は講習回数も急上昇し、市内のあちらこちらで「あなたは119!」、そこ



女性消防団も負けてません

のあなたはAED!」活動実施中です。

◆復興への道しるべ  
最後になりましたが、平成二六年の豪雨災害以降、県内



丹波市「復興の合言葉」心つなぐ

各地から多くの暖かい支援を頂き、徐々に復旧復興も進んでいます。今後も「心つなぐ」をキーワードに、みなさまと力を合わせ力強く取り組んでまいります。引き続きのご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

# わが町の団長さん

## 「消防団に新しい風」

加西市消防団

山下 奉治



加西市は兵庫県の南部、播磨平野のほぼ中央部に位置しており、「花と緑のまち、加西」にふさわしい観光スポーツト県立フラワーセンター、また歴史的遺産も数多く残っており国宝の法華山一乗寺三重塔や、古くは奈良時代初期に編纂された播磨国風土記にも記述のある「根日女伝説」が残る玉丘古墳があります。  
昭和四二年四月一日に、加西市の誕生とともに発足した加西市消防団は、現在一二分

団、一〇〇部、一四一三名の編成で日々消防活動に取り組んでいます。  
山下団長は、昭和六二年に入団されたから分団長、副団長を歴任された後、豊富な知識・経験と消防にかける熱意が認められ、平成二七年度から団長に就任、現在団員の先頭に立ち、地域住民の安全安心を守るため日夜奔走されています。

組みとして、市内大型商業施設「イオンモール加西北条」の防火意識の向上を図ることができました。  
また、常に団員が活動しやすい環境づくりに気を配られており、その処遇改善や装備品の充実にも力を注がれ、市との幾度にも渡る協議を重ね、この一月より消防団への新しい補助制度がスタートすることとなりました。このように、消防団に新しい風を吹き込むことができる団長です。  
昨今、新入団員の確保が困難となる一方、消防団の重要性は益々高まっています。加西市消防団においても、先人の築かれた伝統を受け継ぎながらも、社会状況の変化に対応できる新しい消防団づくりへの手腕を皆が期待しています。

# われら 若手消防団員

～消防団に入団して～

芦屋市消防団 山手分団  
武田 義勇貴



「東日本大震災」に自ら被災しているにも関わらず、震災直後から活動を始めている消防団員。テレビから流れるそんな映像を見て、考えさせられました。  
「復興とはなんなのか？」  
蓄えがあるとか支援を受けたのではなく、いち早く立ち上がり、立ち向かうことが復興ではないかと。  
地域の安心安全のために活動する消防団には、多くの友人知人が入団しており、彼らからタイミングよく声をかけてもらえたことがきっかけで消防団に入団しました。  
入団当初は、訓練もともにこなせませんでした。不安を覚え始めたころ、消防操法大会の訓練に参加させてもらいました。操法訓練は、基本操作の習得だけではなく、本団・分団の仲間、常備消防との信頼関係も築け、と

でも良い経験となりました。今では火災現場で筒先を任されるまでの信頼を得ました。  
また、応急手当普及員の資格を取得させてもらい、女性消防団員が実施する幼稚園児への防災教育のお手伝いや、自主防災訓練時における応急手当講習会の指導にも活躍の場を与えてもらっています。  
平日の活動も増え、時間を取るのも難しいですが、消防団活動を通じて得るやりがいの多さに感謝しています。  
消火活動だけではない地域防災の要「芦屋市消防団」の頼もしい一員になれるようこれからも頑張っていきたいと思っています。



# がんばってます、女性消防団員

## 『全国女性消防団員活性化佐賀大会に参加して』

神戸市灘消防団 第五分団  
団員 塩見 公子



一〇月二十九日、私達灘消防団は、団長をはじめ、女性団員五名で参加させていただきました。  
私は初参加、初九州ということ、この日をとても楽しみにしておりました。当日は少し早めにホテルを出て順調に...と思っていたところ、ちよつとした手違いで電車に乗り遅れ特急に乗れず、どうなる事かと思いましたが、その分ゆつくりと景色を見ることができ、

ハブニングもよい思い出の一つとなりました。  
佐賀駅に着いてびっくり!!なんと、関係者の方々のお出迎え。そして送迎バスまでの道やバスに乗って会場に着くまでの道々で手を振り歓迎してくださいました。  
「感激」の一言でした。  
会場にはたくさんの方々の女性消防団員が来られており、制服姿で歩く私も、その一員なんだと思うと急に自分が誇らしく思えました。  
大会は、パネルディスカッションや様々な活動報告が発表され、皆さん一人一人がとても印象的でした。  
最後は柔道家の古賀稔彦さんの講演会。興味深いお話で聞き入っていました。  
佐賀のおみやげに昼食の容器を有田焼で、とのお心遣いも大変嬉



神戸市参加の5名です

しかったです。  
こんなにもたくさんの方が活気が活きと活動していることに刺激を受け、私も頑張ろうと思いました。  
次回は交流会にもぜひ参加したいです。ありがとうございました。

# 地域のお知らせ

## 小野市

### 住むならーやっぱりの

当市は、兵庫県の中南部、一級河川加古川の下流域にあります。豊かな自然と瀬戸内式の穏やかな気候は、四季折々の草花を咲かせ、住む人の心までも和ませてくれる気候風土となっています。

少しその魅力をご紹介しますと、市の西部には、多くのハイカーが訪れる「小野アルプス」の山々が連なり、山頂から市内が一望できます。そのすぐ近くには、冬を迎えると数千羽の鴨が飛来する「鴨池」があり、のんびりとした自然が来訪者を包み込んでくれます。市の中央には国道一七五号が南北に縦断し、その道路沿いには、遊べば遊ぶほどお気に入りの場所となる「ひまわりの丘公園」があり、大型遊具や「遊べる噴水」で元氣いっぱい遊ぶことができます。公園の南側に広がる花畑では、菜の花や大輪のひまわり、コスモスなど四



小野の夜空を彩る「ファイヤーファンタジア」平成27年 小野まつり

季折々の花が来場者を迎えてくれます。他にも大型ローラーすべり台のある「夢の森公園」、グラウンドゴルフ場がある「こだまの森」もあり、当市には子どもからお年寄りまで楽しめるスポットが多数あります。自然の中でいっばい遊んで楽しんで、あなただけの発見や驚きを見つけてください。

また、毎年八月に開催される「小野まつり」では、五千発の花火が夜空を飾り、一二〇を超えるチームがよさこいなどを披露する「おの恋おどり」では迫力満点の演舞が繰り広げられます。

歴史や産業をたどると、奈良東大寺南大門で用いられた技法「天竺様」を残す唯一の仏堂国宝「浄土寺浄土堂」や鎌倉時代の仏師快慶による国宝「阿彌陀如来三尊立像」、また近くには、「広渡魔寺」など多くの史跡も点在しています。



年間40万人が利用する白雲谷温泉ゆびか 森の眺めや四季を楽しむことができる自然に囲まれた温泉です

最後に、当市では、「住むならーやっぱりのおの」を合言葉に、



国道175号沿いにあり、北播磨一の来場者数（年間約100万人）を誇るひまわりの丘公園 春は菜の花、夏はひまわり、秋にはコスモスと四季折々の花が彩ります

「そろばん」や「金物」を中心に城下町として栄えてきた形跡をたどることもできます。天気がいい日には大池総合公園で、ランニングや水泳、テニスなど、屋内外のスポーツで汗を流したり、広い図書館で一日中読書を楽しんだり、「うるおい交流館エクラ」でコンサートを楽しんだり、当市には楽しみがたくさん詰まっています。

そして、一日の終わりは、市内に六カ所あるコミュニティレストランなどで、地元食材を使った料理を堪能したり、「白雲谷温泉ゆびか」で疲れを癒すなど、魅力いっぱいの料理や施設を試して、あなたの「おすすすめ」のページに加えてください。

「行政も経営」という基本理念のもと、行政経営四つの柱「顧客満足度志向」、「成果主義」、「オンリーワン」、「後手から先手管理」を掲げ、市民の皆さんに満足していただける施策を展開しております。



県下最大のため池「加古大池」

### 人と緑のホームタウン いなみ

## 加古郡稲美町

れた県内最古の「天満大池」があり、絶滅危惧種に指定されているアサザの生息も確認されています。また、県内最大の貯水量を誇る「加古大池」では、「ウォーキングやウインドサーフィンを楽しむ人で賑わっています。これらのため池や水路、水田、集落によって構成された稲美町特有の景観は、文化庁から「稲美のため池群」として、文化的景観の重要地域に指定されています。

当町には、国道や鉄道の乗り入れはありませんが、近隣の四市に囲まれた地理的条件から、基幹産業の農業のほか住宅地や工業用地としても開発が進んでいます。特産品

稲美町は、兵庫県の南部の東播磨地域にあり、東は神戸市西は加古川市、南・北には明石市、三木市とそれぞれ隣接しています。平成二七年は、昭和三〇年三月に加古村、母里村、天満村が合併して稲美町が誕生してから、ちょうど六〇周年の節目の年となります。かつて万葉集に「いなみ野」と詠まれた、水の乏しい「いなみ野台地」を先人たちは、灌漑用水とため池の築造で補い、農業を営んできました。明治以降には、大規模な灌漑用水の完成により、水田開発が大きく進み、黄金色の稲穂に満ちた美しい町の基礎が築かれました。

現在も町内には、八八のため池が点在し、農林水産省から「ため池一〇〇選」にも選ば



稲美町・イメージキャラクター「いなっち」

「いなみ野メロン」や「万葉の香（コシヒカリ）」、キャベツなどに代表される町内の優良な農産物や加工品を「稲美ブランド」として認証し、産業振興にも取り組んでいます。昨年の秋には、天満大池のほとりに、県下最大級のJAの直売所「にじいろふぁーみん」がオープンしました。農産物の直売だけでなく、レストラン、情報発信コーナーなど兼ねた複合施設となっていて、連日多くのお客さんにぎわっています。

### 編集後記

新年あけましておめでとうございます。毎日寒い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。年が改まり、決意も新たに消防団活動に取り組んでおられることと存じます。

今年号では各団体の代表者の年頭のあいさつを掲載しております。また、各地区から多数のご寄稿をいただきありがとうございます。本年も「兵庫消防」のご愛読をよろしくお願いたします。

